

鮟ヶ崎眺望



鮟ヶ崎からの200度の眺望

H21.7.13 Photo by A.O

- 所在地は、宮古市の東方、重茂半島の東端、本州最東端の岬。
地図で確認したい場合は、[Google Earth](#) で直ぐ表示されます。 ($39^{\circ} 32' 48'' N$ $142^{\circ} 04' 16'' E$ [検索](#))
重茂姉吉の集落から徒歩で片道約1時間(約4km)。展望所からは丸い水平線が体験できます。
- 本来の表記は「鮟ヶ崎」です。岬には鮟ヶ崎灯台があり、西には465mの山がある。この地域を含む岩手県の海岸線一帯は、陸中海岸国立公園に指定されている。宮古市では、地名は国土地理院に従って「鮟ヶ崎」、灯台の名前は海上保安庁に従って「鮟ヶ崎灯台」で統一している。
- <鮟ヶ崎灯台>
鮟ヶ崎灯台は、灯台での暮らしぶりの手記から映画化された「喜びも悲しみも幾歳月(昭和32年)」が有名。灯台官舎で職員が家族と共に生活したのはかなり前のこと。当時の官舎の子供たちは、大変な思いをして、この道りを毎日歩いて学校に通ったということです。灯台には平成8年3月まで航路標識事務所の職員が常駐していたが、平成8年4月からは無人化されている。

鮟ヶ崎灯台 ～遠くて近い灯台～

この灯台は、本州最東端の地鮟ヶ崎に1902年(明治35年)に点灯して以来、太平洋を航行する船舶の安全に重要な役割を果たしています。太平洋戦争により初代の灯台は焼失しましたが、1950年(昭和25年)に再建され、1990年(平成8年)機器の完全自動化に伴い無人となり、職員が定期的に巡回管理しています。

1966年(昭和41年)までは職員が家族と共に生活をしていましたが、鮟ヶ崎灯台を含め、全国各地の灯台での暮らしぶりを描いた灯台長婦人の手記が、木下恵介監督の目に留まり、映画「喜びも悲しみも幾歳月(1957年)」として発表され、素晴らしい感動を呼び起こし、その内容は今も「本州最東端の碑」と同じ岩に刻まれ、宮古市の景観のシンボルに欠かせないものとなっています。

(※灯台入り口案内板より)